2014年8月22日

株式会社 ケン・コーポレーション
代表取締役社長　佐藤　繁　様

公益社団法人 日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　支部長　上浪　寛
同 保存問題委員会　委員長　安達 文宏
同 神奈川地域会　代　表　飯田 善彦

ＫＮ日本大通りビル（旧三井物産横浜ビル・倉庫）の保存活用に関する要望書

拝啓　時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。
貴社におかれましては、日ごろから時代の要請に応える企業活動を展開されていることに、弊会として敬意を表するものです。

さて、貴社が昨年取得された横浜市中区のＫＮ日本大通りビル（旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫）について、新たな活用のご計画があり、かつ旧倉庫に関しては、８月中に取り壊される予定である旨、新聞報道等により知りました。

弊会では以下のように、旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫は、横浜の近代化遺産の中にあって最も重要な建物の一つであると認識しております。

まず建物自体について言えば、事務所棟は日本最初の鉄筋コンクリート造のオフィイスビル（1911年〈明治 44 年〉竣工）であり、またその前年に竣工した倉庫棟部分は、煉瓦造、屋根および柱は鉄筋コンクリート造、床は木造という混構造で、これらは日本における鉄筋コンクリート造の成立過程を示す貴重な建築群として位置づけられます。
日本建築学会からも、これらにつき、オリジナル部分の十分残されている貴重な明治末期の建物として重要文化財に相当する、との評価が出されております。

設計者の遠藤於菟は横浜ゆかりの建築家で、生涯 60 棟を超える建物を設計しましたが、横浜での遠藤の作品は、解体計画が昨年発表された旧帝蚕倉庫を含めても、この旧三井物産横浜ビルおよび同倉庫、旧帝蚕倉庫事務所の計４棟を残すのみとなってしまいました。 関東大震災以前に竣工しながら大きな被害も受けず、倉庫については収蔵の生糸も無事に残ったことが記録されており、これは建築家 遠藤於菟の類いまれな才能を示すものと言えます。

本倉庫はまた社会史的に見ても、ことし世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」にとっての最終出港地 横浜での最古の輸出拠点にあたります（煉瓦倉庫より１年前に竣工）。 横浜の現在の発展の基礎を築いた重要な文化遺産であり、富岡製糸場と同根の歴史背景を持つ、第一級の近代化遺産と言えます。

都市景観として見ましても、日本大通りは慶応の大火の復興による二十間道路として整備され、そこに関東大震災前からのこの建物や、震災復興建築の旧商工奨励館、県庁本庁舎等が軒を並べており、横浜開港からの歴史的景観を今に伝える最重要地区の一つと言えます。 平成23年には国の景観大賞に選ばれるなど、地域の核そして横浜らしさの原点ともなっております。

以上、旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫の極めて大きな歴史的・景観的な価値に鑑み、旧倉庫解体のご計画をいったん保留された上で、この貴重な文化財に潜在する経済的資産価値を発掘できないかにつき、横浜市や関係者の知恵を結集され、震災を挟んだ横浜の発展の証人としてぜひ現物保存し利活用して頂けますよう、ここに切にお願いする次第です。

なお、公益社団法人　日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会並びに同神奈川地域会は、そのために出来る限りの協力をさせて戴きたく存じます。

敬具

公益社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291 Fax.03-3408-8294